

九州地方の指導にあたって ～自然環境とその保全を中核とした考察

●『学習指導要領解説』の抜粋

日本の諸地域について、幾つかに区分し、その地域的特色や地域の課題を理解する。次の①から⑤までの考察の仕方を基に、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を通して、知識及び思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう指導する。

①自然環境を中核とした考察の仕方、②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方、③産業を中核とした考察の仕方、④交通や通信を中核とした考察の仕方、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方。

①自然環境を中核とした考察の仕方

地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それをそこに暮らす人々の生活・文化や産業などに関する事象と関連付け、自然環境が地域の人々の生活・文化や産業などと深い関係をもっていることや、自然災害に応じた防災対策が地域の課題となることなどについて考察することが考えられる。

●指導上の留意点

日本の国土の地域的特色をさまざまな面から考え、理解させる。九州地方は南西諸島が含まれるため、日本の地域区分の中では、特に大きな広がりを持つ地域である。まず第一に、沖縄島や周辺の島々を含めた広がりをイメージできるようにし、他の地方とは異なる特色を持つ自然環境について考えさせたい。一年中温暖な南西諸島や台風、梅雨の影響など気候だけではなく、雲仙岳や桜島など火山活動が日々の暮らしに密接にかかわっていることにも気づかせたい。

現在の九州地方は福岡県を中心に中国、韓国をはじめとしたアジア諸国との結びつきが強まっている。交通機関の発達による観光、ビジネスなどの人の移動や、国際分業や貿易といったモノの移動など、ますます活発になっている。このような九州地方とアジア諸国との交流は古くから行われているものである。こうした点を歴史的分野の授業と関連づけて理解させたい。

●ワークシートの単元構成 《想定する時間数:全体で5時間》

時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ
1	九州地方をながめて	九州地方の位置と広がり 自然環境 大陸との関係	構成する県名 主な地形と気候の特色	p.56
2	自然を利用した暮らしと農業	自然災害 農業開発と畜産業	主な火山、シラス台地 ハザードマップ、養豚	p.57
3	工業の変化と環境保全	工業の発展と変化	北九州工業地域 エネルギー革命、IC産業	p.58
4	南西諸島の観光開発と環境保全	観光開発と環境保全 沖縄の発展	亜熱帯、さんご礁、伝統文化 アメリカ軍基地	p.59
5	九州地方のまとめ	大きくとらえた九州地方	白地図を利用して、 九州地方の特色を整理する	p.60

九州地方 ①

九州地方を ながめて

●学習のねらい●

地図帳を使って九州地方の位置や構成する県、自然環境の特色を調べよう。

九州地方の範囲は広く、南西諸島だけでもその両端は1,000km以上におよんでいます。九州地方の位置とその広がり
を他の地方と比べてみましょう。実際に1,000kmという距離は、東京から福岡市や札幌市までの距離にほぼあたります。こうした位置関係から、九州地方の最北の福岡県と沖縄県では気候をはじめとした自然環境が大きく異なっています。

また、九州地方は大陸に最も近い位置にあり、古くから大陸との交流が行われてきたため、多くの外国の文化の影響がみられる地域でもあります。例えば、長崎県の対馬は、対馬海峡をはさんでプサン（釜山）まで50kmほどであり、修学旅行で韓国を訪問する高校もみ

れます。九州地方の中心地である福岡市は、特にアジア地域との結びつきが強い都市です。福岡空港には多くの国際線の発着がみられるほか、博多港—プサン港との間は高速船による航路で結ばれています。

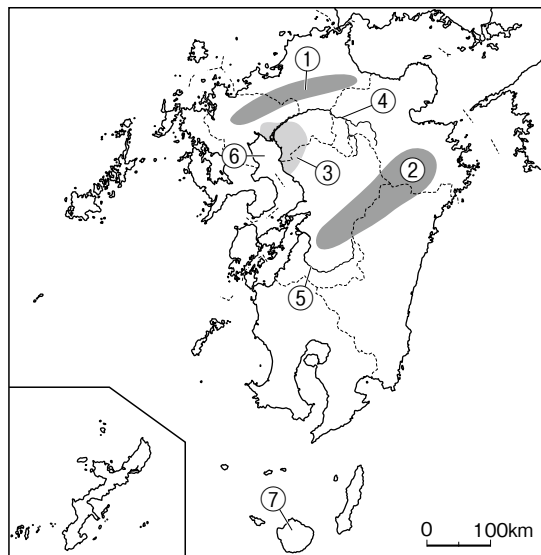
自然環境の面では、緯度のうえで南に位置しているだけでなく、日本海流（黒潮）と対馬海流という二つの暖流にはさまれているため、温暖な気候に恵まれています。また、太平洋に面する宮崎県や鹿児島県、沖縄県は、台風や梅雨の影響を受け、春から秋にかけての降水量が多くなります。また、南西諸島では気候も亜熱帯性となっており、さんご礁やマングローブなどが発達しています。

課題 1 次の都市間の距離を地図帳などを参考に書き入れよう。

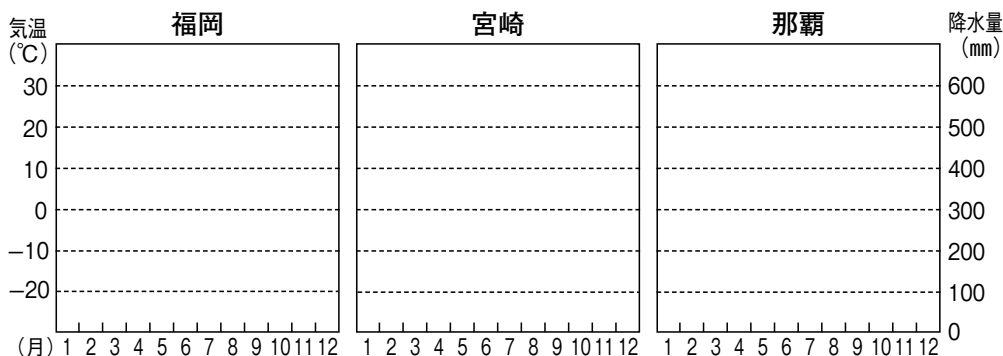
- ① 東京—大阪市 約 () km
- ② 福岡市—プサン市（韓国）約 () km
- ③ 福岡市—那覇市 約 () km
- ④ 那覇市—石垣市 約 () km

課題 2 次の文章を参考に、右の地図の①～⑦に当てはまる自然地名を記入しよう。

- ・ くだらかな ① () 山地と険しい ② () 山地
- ・ ③ () 平野を流れる ④ () 川
- ・ 八代海に注ぐ ⑤ () 川
- ・ 干満の差が大きく、のりの養殖が盛んな ⑥ () 海
- ・ 世界自然遺産に指定されている ⑦ () 島



課題 3 下の表を見て、次の欄にそれぞれの都市の気温と降水量のグラフを作成しよう。また、作成したグラフを見て、それぞれの都市の気候の特徴を比べよう。



各地の月平均気温（上段、°C）と降水量（下段、mm）

〔理科年表 2021年版〕より）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
福岡	6.6	7.4	10.4	15.1	19.4	23.0	27.2	28.1	24.4	19.2	13.8	8.9	17.0
	68.0	71.5	112.5	116.6	142.5	254.8	277.9	172.0	178.4	73.7	84.8	59.8	1612.3
宮崎	7.5	8.6	11.9	16.1	19.9	23.1	27.3	27.2	24.4	19.4	14.3	9.6	17.4
	63.8	90.8	182.1	212.5	239.3	429.2	309.4	290.2	354.6	181.8	95.0	60.0	2508.5
那覇	17.0	17.1	18.6	21.4	24.0	26.8	28.9	28.7	27.6	25.2	22.1	18.7	23.1
	107.0	119.7	161.4	165.7	231.6	247.2	141.4	240.5	260.5	152.9	110.2	102.8	2040.8

九州地方 ②

自然を利用した暮らしと農業

●学習のねらい●

九州地方に分布する火山と、人々の暮らしや農業とのかかわりを調べよう。

日本は多くの火山が分布する国で、九州地方には人々の暮らしに影響を与えている火山が多く見られます。火山はその活動を通して温泉や美しい風景をつくり出し、多くの人々を集める観光地として、また、再生可能なエネルギーである地熱発電に利用されています。その一方で、1991年の雲仙岳（平成新山）の噴火時のように、火砕流や毒性を含む火山ガス、地震の発生など、地域の人々に大きな災害をもたらします。また、火山灰は農作物に被害を与えるほか、長時間に渡り大気中を漂うため、日照不足や気温の低下を招くことがあります。

また、火山活動によって九州本島の南部には、シラスとよばれる火山灰が堆積

したシラス台地が広く分布しています。「白い砂」を意味するシラスは、軽くて水を通しやすいので水の確保が困難なため、農地の開発が遅れ、シラス台地の土地利用はさつまいもなどの畑作や畜産に限られていました。鹿児島市は、古くからの市街地は大地に囲まれた低地にありましたが、高度経済成長期以降は、シラス台地上にも宅地開発が進みました。シラス台地の崖は、大雨による土砂災害の危険性があるため、崖ぎわの建築について規制したり、建物の移転を支援したりして災害防止に努めています。一方で、鹿児島県はシラスを地域の資源として生かす研究を重ね、シラス製のコンクリートや瓦、ブロックなどを開発してきました。

課題 1 ①の例にしたがって、ほかの②～⑥の火山の位置を地図帳で調べ、右の地図に番号と記号▲を記入しよう。

(例：①雲仙岳)

②阿蘇山 ③桜島(御岳) ④くじゅう連山 ⑤霧島山 ⑥開聞岳

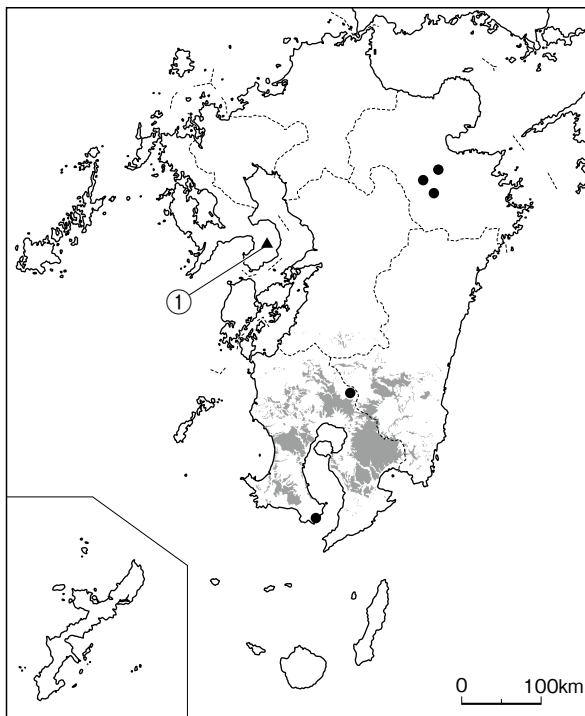
課題 2 地図中の●は、火山の力を利用して発電を行う発電所の分布を示しています。そのような方法で行う発電を何というか記入しよう。

発電

課題 3 火山活動が人々の生活に与える影響について、有利な点、不利な点に分けてまとめよう。

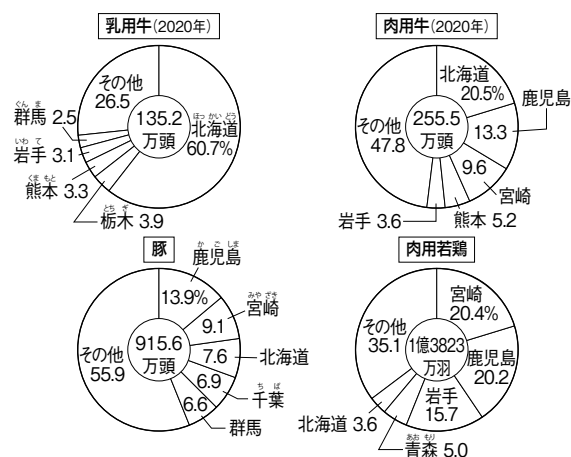
有利な点

不利な点



課題 4 地図中の■はシラスの分布を示しています。シラスの特徴やその分布についてまとめよう。

課題 5 右のグラフから、九州地方の農業の特色とその背景を、火山とのかかわりを参考にして考えてまとめよう。



(2019年「畜産統計」ほかより)

九州地方 ③

工業の変化と 環境保全

●学習のねらい●

九州地方における工業を環境とのかかわりから調べ、これからの工業のすがたを考えよう。

北九州工業地域は、筑豊炭田、三池炭田など周辺地域で産出される石炭と、中国からの鉄鉱石を背景に鉄鋼業が発達していました。しかし、原料の輸入先がオーストラリアやブラジルなどに変わり、また、大消費地から遠距離に位置するなどの条件が重なり、工業生産額で後発の工業地域を下回るなど、その地位は大きく低下しました。また、大気汚染や水質汚濁などの公害が発生したことも、北九州工業地域に変化をもたらしました。

現在の九州地方では、半導体や集積回路（IC）などの電子部品の工場や自動車工場が進出しています。電子工業の製品は小型で軽量ながら高価格であり、生産費に対して輸送費の割合が低くすむため、消費地から遠いという不利な点を航

空機輸送で補うことができます。電子工業が発達した九州地方は、「シリコンアイランド」などとよばれていました。

自動車工業は、福岡県が石炭による素材型工業からの転換を図るために1970年代から工場を誘致したことに始まり、現在では多くの工場が進出しています。九州は「カーアイランド」ともよばれ、アジアの中でも有数の生産台数を誇ります。今後、電気自動車の開発にともない、自動車と半導体という二つの産業を結びつけるなど、新たな動きがあります。

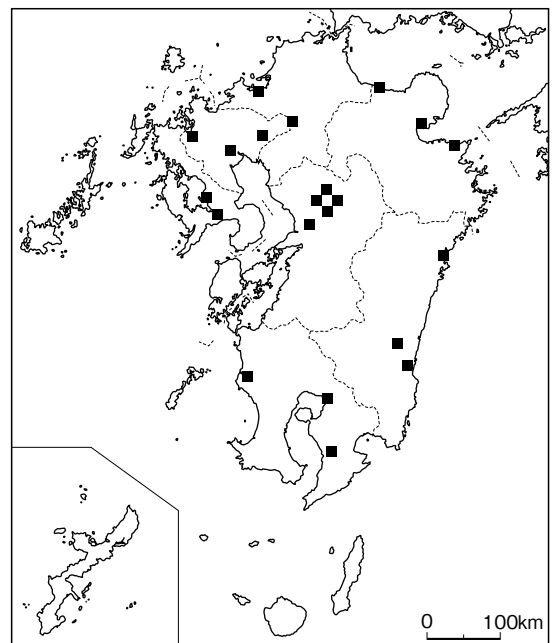
九州では、北九州市が「環境未来都市」などに、水俣市が「環境モデル都市」にそれぞれ選定され、低炭素社会の実現と持続可能な発展を両立する都市として注目を集めています。

課題 1 次の文は、北九州工業地域について述べた文です。文中の①～⑦に当てはまる語句を記入しよう。

1901年に官営（①）製鉄所が建設されて以来、地元の（②）炭田や（③）から輸入する鉄鉱石を背景に発達を続けました。しかし、1960年代以降の（④）革命で炭鉱が閉山したことや、鉄鉱石の輸入先が（⑤）に変わるなど、原料の面で有利ではなくなりました。また、北九州市は東京などの（⑥）に遠いことや、他地域に新たな大型製鉄所ができたこと、洞海湾の（⑦）などの公害が発生したことも鉄鋼業が衰退する原因となりました。

課題 2 九州地方では、自動車生産による工業生産額が伸びてきました。自動車工業が発達した理由を考え、まとめよう。

課題 3 右の地図中の■は、集積回路（IC）工場の位置を示しています（2016年）。この地図に、国際線が発着する空港の位置を地図帳で確認し記入しよう。また、工場と空港の位置関係からその理由を考え、まとめよう。



課題 4 北九州市や水俣市では、「環境未来都市」という環境にやさしいまちづくりが進められています。これら二つの「環境未来都市」では具体的にどのような環境対策が行われているのかを調べよう。

九州地方 ④

南西諸島の観光開発と環境保全

●学習のねらい●

沖縄県などの南西諸島について、自然環境や文化の特色と社会的な課題を考えてみよう。

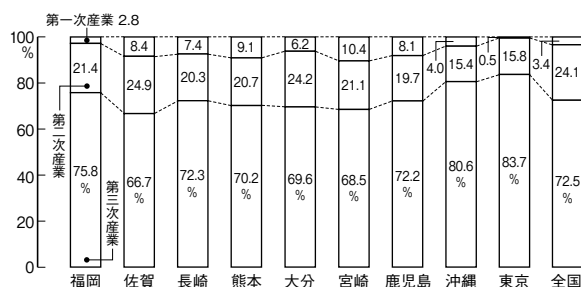
南西諸島は、種子島や屋久島などから西表島や与那国島までの広範囲に広がっています。ここは南西諸島の気候区に属し、冬でも温暖であることが大きな特徴です。このため、美しいさんご礁の海岸や亜熱帯性の植物、ヤンバルクイナなど沖縄固有の動物をはじめとした自然環境が見られ、全国から多くの観光客を集めています。

沖縄県には独特の自然環境のほかに、かつて琉球王国であった歴史があり、紅型や琉球ガラスなどの伝統工芸、島唄とよばれる民謡やエイサー踊りなどの伝統的な文化が注目され、訪れる観光客数を伸ばしてきました。沖縄島だけではなく、石垣島や宮古島などにもリゾート開

発が進み、「離島ブーム」という言葉も生まれました。現在、観光業は沖縄県の中心的な産業となり、産業別の人口割合でも、観光業を含む第三次産業が80%と、とても高い割合になっています(2017年)。沖縄県の産業別人口割合において第三次産業の割合が高い理由については、第二次世界大戦後、沖縄がアメリカ軍の軍政下におかれ、1972年に日本に復帰した後、現在までアメリカ軍の基地が多く、基地関連の産業などに従事する人が多いことが挙げられます。加えて、日本に復帰後、国や県が観光開発に力を入れてきたことがあります。しかし、観光開発による赤土の海洋流出などの自然破壊が問題となっています。

課題 1 沖縄県に多くの人々を集める観光資源となっている、沖縄固有の動植物や伝統文化を調べよう。

課題 2 右の表は、九州地方の各県と東京、全国の産業別人口の割合を示したものです。九州地方や全国と比べて、沖縄県はどのような特徴があるのか書き表そう。また、その理由について考えよう。

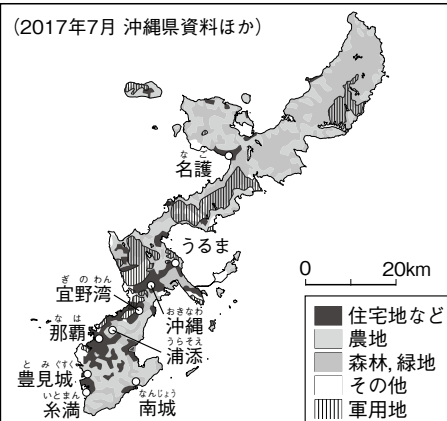


(2017年 総務省「就業構造基本調査」より、分類不能は第三次産業に含む)

課題 3 冬でも温暖な気候を利用して、どのような農業を行うことができるか、教科書p.180も参考にしながら考えよう。

課題 4 教科書の184ページ資料3を見て、右の地図の軍用地を示す範囲を赤色で着色しよう。また、そのことから、どのようなことがわかるか書き出そう。

(2017年7月 沖縄県資料ほか)



九州地方 ⑤

九州地方の まとめ

●学習のねらい●

きゅうしゅう
九州地方について学習
してきた内容を地図の上で
確認しながらまとめよう。

九州地方は日本の^{なんせいたん}南西端にあり、ユー
ラシア大陸や^{ちようせん}朝鮮半島に最も近い位置
にあります。古くから外国との交流の^{げん}玄
関口としての役割を果たし、^{てっぽう}鉄砲やキリ
スト教の伝来や、^{とうじき}陶磁器のヨーロッパへ
の輸出の窓口にもなりました。現在でも、
九州地方はアジア地域を中心に国際交流
の活動が盛んであり、福岡市内などでは
中国人観光客のための漢字や、^{かんこく}韓国人観
光客のためのハングル文字の看板や案内
なども見られます。

人々の暮らしは、温暖な気候のため過
ごしやすいものの、台風や梅雨、桜島を
はじめとして活動が活発な火山が多いこ
とによる自然災害などの被害を受けやす

くなっています。^{みやざき}宮崎県や^{かこしま}鹿児島県では、
温暖な気候を利用して野菜の促成栽培が
行われるなど、九州各地で生産の工夫が
行われています。遠浅の地形をもつ有明
海の周辺地域では、古くから干拓によっ
て土地を広げ、^{いなさく}稲作地帯が形成されまし
た。また、九州南部に広がるシラスとよ
ばれる火山灰地では、自然条件を克服し
て畜産業が盛んになっています。多くの離
島からなる^{おきなわ}沖縄県では、広大なアメリカ軍
基地による問題とともに、^{かそ}過疎の対策と産
業の振興という大きな悩みを抱えています。
一方、^{りゅうきゅう}琉球王国時代からの伝統的な文
化や亜熱帯の自然環境を生かした観光産
業の進展が期待されています。

課題 1 次の①～⑩の文章は、地図中の①～⑩につ
いて説明したものです。①～⑩の（ ）
に当てはまる語句を記入しよう。

- ①（ ）市は、官営（ ）
製鉄所の建設から鉄鋼業の歴史が始まり、現在は
環境に優しいまちづくりを目指している。
- ②（ ）市は、国の（ ）
機関が集まる九州地方の政治・経済の中心であり、
アジア諸国との交流が盛んである。
- ③（ ）平野は低湿地が多く、^{ていしつち}かんが
^{はいすい}いや排水のための（ ）が^{あみ}網の目のよ
うに^ほ掘られている。
- ④（ ）海では遠浅の（ ）
を埋め立てる干拓事業が行われてきた。1997年
に^{ていぼう}しめ切られた堤防によって海の環境に影響をお
よぼしているとして議論されている。
- ⑤（ ）市の港は、江戸時代には中国
やオランダとの玄関口で、人工島であった（ ）
^{だん}弾が投下された。
- ⑥（ ）山は、現在も活動が活発な火山であり、^{がいりんざん}外輪山に囲まれたくぼ地は、鉄道が通るほど巨大な（ ）
^{きょだい}である。
- ⑦（ ）平野では（ ）の原料となる^い草の栽培が盛んであるが、近年、中国からの安い
^い草が輸入されるようになり、産地どうしの競争が厳しくなった。
- ⑧（ ）市では、かつて化学工場が海へ流した^{はいえき}廃液に含まれていた（ ）により公害が発生し、
多くの人々が犠牲になった。
- ⑨（ ）平野では、海岸付近にビニールハウスが建ち並び、温暖な気候を利用し、他の地域より早く
野菜を出荷する（ ）栽培が行われている。
- ⑩（ ）市は、復元された（ ）王朝の首里城などの観光資源に^{めぐ}恵まれる一方、周辺の離
^{とう}島を結ぶ交通の要地としても重要な県庁所在地である。

